

来週の市場とレート予想

	2/19(月)	2/20(火)	2/21(水)	2/22(木)	2/23(金)
無担保O/N			△0.075% ~ 0.001%		
銀行券	+ 200	トシ	△1,000	△1,000	△2,000
財政他	△3,600	△20,000	△1,000	△5,000	+ 1,000
資金需給	△3,400	△20,000	△2,000	△6,000	△1,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M)	国庫短期証券発行・償還(1Y)		交付税特会借入・償還	
オペ期日	共通担保(全店) △1,400 CP等買入 △100 国債補完供給 + 700				
オペスタート	共通担保(全店) + 2,300 国債買入 + 10,500	CP等買入 + 2,500			
(日本)	貿易統計(1月)		布野審議委員、日銀松江支店 開設100年記念講演(松江市)	日銀営業毎旬報告 (2月20日現在) 日銀が保有する国債の 銘柄別残高 日銀による国庫短期証券の 銘柄別買入額	CPI(全国1月)
(海外)	欧ユーロ圏財務相会合 (ブリュッセル)	欧ユーロ圏消費者信頼感指数 (2月、速報値) 欧EU財務省理事会(ブリュッセル)	米ファイナルファイア連銀総裁、講演 米中古住宅販売(1月) 米FOMC議事録 欧ユーロ圏製造業・サービス業・ 総合PMI(2月、速報値)	米新規失業保険申請件数 (17日終了週) 米NY連銀総裁、講演 米アトランタ連銀総裁、講演 米景気先行指標総合指数(1月)	米サンフランシスコ連銀総裁、講演 欧ユーロ圏CPI(1月、改定値)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.040 ~ 0.060
SPOT 2M	△0.030 ~ 0.060
SPOT 3M	△0.020 ~ 0.070
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.120

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初360兆4,500億円から始まった。その後は、短期・国債買入オペや15日の年金定時払いを主因に増加し、週末には365兆9,700億円となった。  
無担保コールON物は、積み最終日の15日まで資金調達ニーズが強く、同加重平均金利は△0.033~△0.029%のレンジで推移した。一方、新積み期となる16日はビットサイドが慎重となったことから落ち着いた展開となり、同加重平均金利は△0.042%となった。ターム物は、1~2W物を中心に△0.025~△0.03%での出合が散見された。  
政府は16日、衆参両院の議院運営委員会理事会で、4月8日に任期満了を迎える黒田東彦日銀総裁を再任する国会同意人事案を提示した。3月19日に任期を終える中曾宏、岩田規久男両副総裁の後任には、日銀の両宮正佳理事と早大の若田部昌澄教授を充てる人事案も提示した。  
来週の主な予定は、国内では全国消費者物価指数の発表(23日)、海外では米連邦公開市場委員会(FOMC)の議事録の公表(21日)などが予定されている。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	△0.010 ~ 0.000
TDB 3M	△0.200 ~ △0.150
現先(on/1w)	△0.100 ~ 0.000

<CP>

今週の入札発行総額は約7,900億円で、週間償還総額の約4,900億円を上回った。5・10日発行で発行案件が増加、また連日商社等からの大型案件もあり、活況なマーケットであった。今週末の発行残高は、17兆5,000億円程度と思われる。発行レートは、引き続き投資家の運用ニーズが強く、マイナスから0.000%近辺の出合。15日に、CP等買入オペ(2,500億円)がオファーされた。結果は、応札額が4,385億円と前回(7,365億円)に比べ大幅に減少し、按分落札レートは△0.005%(同△0.001%)、落札平均レートは△0.003%(同0.000%)とともに低下した。  
来週の償還総額は、約3,200億円となっている。発行市場は、月末日の前倒し発行等が見込まれ、発行超が予想される。発行レートは、投資家の運用ニーズが強く、引き続きマイナスから0.000%近辺の出合であろう。現先レートは、△0.100%~0.000%程度の横這い圏内の出合と思われる。CP等買入オペが、23日に2,500億円程度オファーされる予定。

<TDB>

15日に行われた国庫短期証券3M第739回債の入札は、最高落札レート△0.1563%(前回債△0.1479%)、平均落札レート△0.1607%(同△0.1524%)と前回入札からマイナス幅を拡大。また、16日に行われた1Y740回債も最高落札レート△0.1607%(同△0.1371%)、平均落札レート△0.1627%(同△0.1401%)と前回からマイナス幅を拡大した。  
週末のセカンダリー市場は、新発3M物が△0.17%前後、6Mが△0.162%、1Yが△0.178~△0.175%で出合が見られ、いずれも入札水準に比べ堅調な推移となった。  
来週は22日に3M物の入札が予定されている。

<レポ>

足許GCは週初△0.095%~△0.10%から始まった。新積み期入りとなる16日受渡し以降レートは低下基調となり、△0.10%~△0.115%の出合が中心。週後半は短期3M、1Yの発行が続いたが、レートの上昇は見られなかった。SC取引では、10年349回債が13日と15日の国債買入オペ後△0.10%台後半~△0.20%近辺の出合。5年134回債は、入札日前日△0.30%台半ば~△0.40%台前半で一部取引された。その他2年381・382・383・384・385回債、5年131・133・134回債、10年336・337・338・339・340・341・342・344・346・347・348・349回債、20年162・163回債、30年56・57回債などに引合が多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。